

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科
フィールドワーク・インターンシッププログラム 2011年度 派遣報告書

報告者氏名 川畑 亜瑠真

平成 22 年度 (入学)

1.研究課題:

イスラーム世界におけるハラール食品市場と認証制度

2.派遣期間:

平成 23 年 9 月 1 日 ~ 23 年 9 月 23 日 (22 日間)

3.今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

目的は、東南アジアのハラール市場に関わるフィールド調査と資料収集であった。このうち、フィールド調査では主にハラール認証機関、ローカル市場やハイパーマーケットなどの食品市場、そして屠畜場での調査を行った。資料収集では、大学などの研究機関、国立図書館、民間の書店（紀伊国屋）での情報収集に努めた。

全部で3週間ほどの期間でシンガポール、タイ、マレーシアの3カ国を訪問するのは日程的にもハードだったが、3カ国に関するハラール市場の実態を把握し、資料をくまなく収集することができた。これらの写真資料、文字資料を有効に活用して、予備論文に向けての執筆を行っていききたい。

4.自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や展望について

現在、東南アジアではハラール産業が急激に勃興している段階である。その状況をこの目で見ることができ大いに刺激になった。実際に研究機関に赴いてみて繋がりをつくっていくことで、留学の可能性も創り出すことができた。今後、ハラールの分野を究めていくうえでこれらの研究機関を目指してみようと考えている。主な研究機関としては、シンガポール国立大、マレーシアプトラ大学、チュラロンコーン大学である。

5.本プログラムに関して意見をお聞かせください。また、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいですか？

本プログラムでは、自身の調査計画に関して制約がほとんどなかったのが魅力的であった。その結果、自分の研究に即した調査活動を行うことが可能であった。今後も、ある程度融通の利くプログラムが望ましいと思う。また、今後につなげるために、写真資料や映像資料のノルマを課してもいいのではないかと思う。